“たまげだ” 人形完成

金多豆蔵人形作り・芝居体験修了式

駅ナカにぎわい空間で行われていた、「金多豆蔵人形芝居」の人形を作る体験がこのほど終了し、3月10日(日)に締めくくりとして、芝居体験と修了式が行われました。

この人形作り体験は、地元の人たちに人形劇の楽しさを伝えるとともに、伝統芸能の継承を狙って開催されたもので、この日は29人の受講生のうち約15人が出席しました。体験は都合7回行われ、約15時間にわたって参加者が自由に人形を制作。断熱材を削り人形の型を作ったあと、下地のパテ塗り、水性塗料を塗る顔作り、そして着物や紙を付けて完成となります。できあがった人形を見ると本当に本格的で、劇中に出てきてもおかしくない人形が何体もできあがっていました。

芝居体験では、この体験の校長である金多豆蔵人形一座の主宰者　木村巌さんが登場。木村さんと体験者の人形が、幕開けと即興の劇を演じるという内容でしたが、皆さん芝居がうまく、会場を笑いの渦に巻き込んでいました。

最後は、町長から体験参加の証明書も授与。「長い体験で皆さんお疲れ様。人形を見ると、不思議と作った人に似てくるものでびっくり」とこちらも会場を笑わせていました。

校長を務めた木村さんは「最初はどうなることかと思ったが、皆さんいいでき映え。人形に個性があっていい。この人形たちを持ち寄って、みんなで演じるのも面白いね」と、〝共演構想〟を話してくれました。

一輪車ボクもワタシもす～いすい

富野保育所 今年から一輪車導入

富野保育所では、今年から一輪車を導入し、入所児の保育活動に役立てています。取材に行ったときは、年長の子どもたちが自由自在に乗っていました。

導入のきっかけは、子どもたちに何かできることを見つけてもらおうとしたもので、吉田所長の夢であり念願だったとのこと。バランス、平衡感覚を養うのにとても役立っているそうです。富野保育所としては初めての試みで、このあたりの保育所ではあまり見かけない取り組みです。

見ていると、ほとんどの子が手すりを使わずに乗れている様子。保育士によれば「本当に楽しそうに乗っている。朝保育所に来ると、一輪車のことばっかり話している」と、一輪車の魅力に子どもたちは夢中のようです。

最初は泣き出しそうな子もいたようですが、最近は転び方もうまくなり、みんな元気いっぱいにすいすいと一輪車をこいでいました。

三上さんの“人生”演劇に

中里小５年生が
学習成果を発表

中里小５年生が、昨年12月７日㈮に中里町自然農法研究会代表の三上新一さんを訪れ、自然農法の苦労や米作りを学びました（広報１月号で紹介）が、その子どもたちが学習成果を演劇にし、３月７日㈭に同小で三上さんや家族など５人を招いてお披露目されました。

12月の学習時には、60問以上にわたる質問を三上さんに投げかけていた子どもたち。そのせいもあってか、演じられた作品は自然農法を深く理解していなければできないものでした。演劇は、１組・２組をそれぞれ４グループに分け、脚本や配役、小道具作成など、すべてが子どもたちの手づくりによるもの。三上さんや家族が農薬入りの米を食べて病気になったことから始まり、自然農法実践に至る決意、その苦労や努力、平成７年の大冷害で認められたこと、そして自然農法のこれからの展望など、なかなかの大作でした。

劇中では、三上さんと奥さんのやりとりなど、本人たちにしか分からない場面は脚色して演じられ、観賞した三上さんたちや児童たちが時折笑い声を上げ、演劇を楽しんでいました。

劇を見た三上さんは「本当によく調べて、理解してくれていた。自分の昔の苦労、孤独感を思い出して、涙が出てきた。これからの農業は、作る人に優しく、食べる人に優しく、そして環境にも優しくというのがキーワードだと思う。これを忘れないで、農業を志してほしい」と、これからの子どもたちに期待していました。

今年も優秀な成績収める

ロボコン出場の小泊少年少女発明クラブ

日本原燃㈱が主催し、２月16日㈯六ヶ所村総合体育館で行われたロボットコンテストでの成績を報告するため、３月１日㈮小泊少年少女発明クラブの７人と沼田会長が町長室を訪れました。

今回は、初級部門の「ロボコップ相撲」で団体優勝、中級部門「ロボ-１グランプリ・プラス」で個人戦準優勝など、昨年に引き続いて優秀な成績を収めました。

町長室では、初級部門で優勝の５人が、自分たちのロボットを町長に披露。その場でロボット同士の相撲を取り、町長ほか周りの大人たちが感心していました。

団体優勝した５人のうちの１人である荒関一輝くん（小泊中２年）は「みんなで力を合わせてがんばったのが優勝につながった。来年も優勝できるようがんばりたい」と感想を話していました。

■主な成績

・初級部門個人戦　第３位
　佐々木亮太（小泊小５年）

・初級部門団体戦　優勝
　佐々木亮太（小泊小５年）
　磯野　海吏（小泊小５年）
　藪田　洸哉（小泊小５年）
　三上　大悟（小泊中１年）
　荒関　一輝（小泊中２年）

・中級部門個人戦　準優勝
　山田　法康（小泊中１年）

若い視点の成果まちづくりに

高校生まちづくり塾が報告会

3月23日㈯、宮野沢地区にあるふれあいセンターで、若者目線で町のこれからを考える「高校生まちづくり塾」の報告会が開かれ、活動の成果が披露されました。

この日参加した中里高校の5人は、昨年度に行ってきたさまざまな取り組みを、スライドを交えて紹介。特に、3月16～17日にかけて行ってきた「むつ市大湊高校川内校舎」生徒との交流合宿では、お互いの町の資源を紹介し合いながら、新たな名産や商品などを考えるというワークショップを開催。同市出身の有名俳優　松山ケンイチさんと、金多豆蔵、ストーブ列車とのコラボレーションなど、若者ならではのアイデアをまとめていました。

そしてこの日は、塾生が1年間取り組んできた町特産品使用の試食品を披露。出されたものは、ブルーベリーが入った炊き込みご飯、チーズケーキ、ドレッシングで、検討委員の皆さんと一緒に試食しました。

発表した5人は「町のことを知ることができ楽しかった。1つでいいから商品として出したいので、今年も取り組んでいきたい」と意欲を見せていました。

雪解け進んだ町さわやかに

春一番街歩きウオーク

3月24日㈰、町ウオーキング協会が主催して「春一番街歩きウオーク」が開かれ、スタート地点の駅ナカにぎわい空間に約20人の参加者が集まりました。

今回のコースは、津軽中里駅から中里地区の目抜き通りを経由し、町特産物直売所「ピュア」に立ち寄って、津軽中里駅に戻るというコース。まだ、肌寒さが残る約8・1㎞のコースを、町並みを眺めながら参加者は元気に歩いていました。

途中立ち寄った「ピュア」では、工事が大詰めを迎えている「農産物加工販売施設」を見たり、買い物をしている参加者が見られました。

ゴールの駅ナカにぎわい空間には、正午前に全員がゴール。用意されたおにぎりやふるまい鍋を食べながら、歩いてきた道のりを振り返り、お昼ご飯を楽しんでいました。

この日の最年少参加者で、祖父母と一緒に歩いた三上柊哉（しゅうや）くん（中里小2年）は「疲れたけど元気に歩けた。次は袴腰岳にも登ってみたい！」と疲れたとは思えないコメントをくれました。

参加者は、ちょうどこのあとに行われた中里中吹奏楽部の演奏会も観覧。演奏された5曲をに耳を傾け、ゆっくりウオーキングの疲れを癒していました。